

第 11 回  
おこやま環境教育ミーティング  
実施報告書

2025 年 1 月

かんきようひろば事務局



# 1. 概要

- ・日 時：2024年9月23日（月）  
 午前の部（ブース展示） 10：00～12：00  
 午後の部（分科会、全体会）12：30～16：30
- ・会 場：岡山国際交流センター 7階、8階
- ・ブース出展：30団体
- ・進行役：大森哉絵氏（NPO法人だっぴ コーディネーター）
- ・参加者：239名（午前：129名、午後：110名）  
 ※岡山県、事務局スタッフを除く

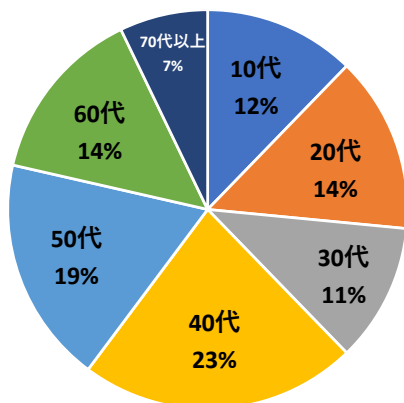


図1. 参加者の年代（回答数 98）

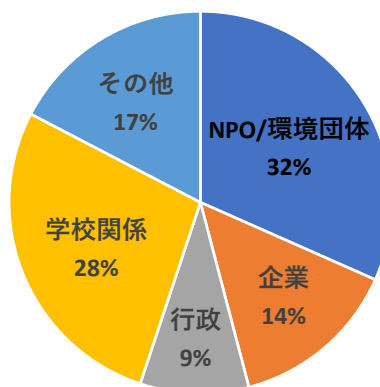


図2. 参加者の所属（回答数 98）

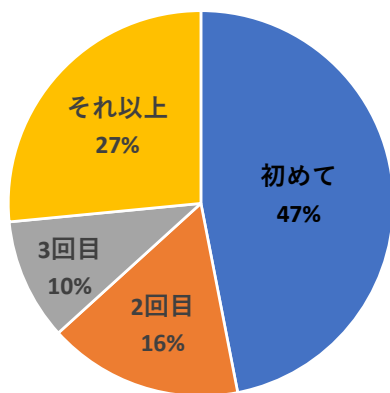


図3. 参加者のこれまでの参加回数（回答数 98）

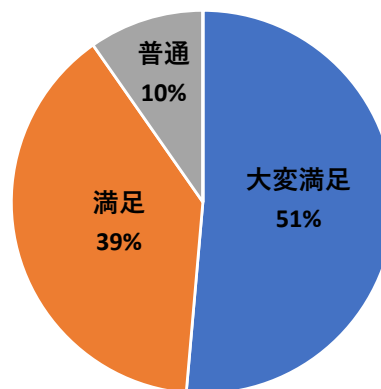


図4. ブース展示の満足度（回答数 72）

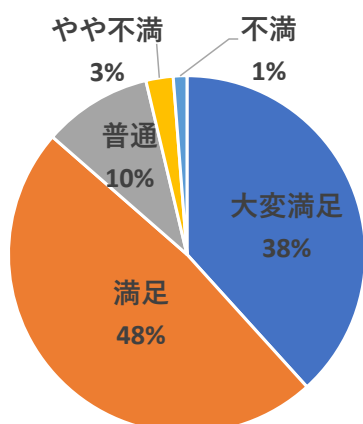


図5. 分科会の満足度（回答数 81）

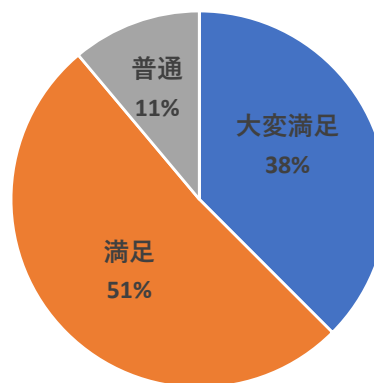


図6. 全体会の満足度（回答数 72）

## 2. 全体スケジュール

時刻	内容
10:00	ブース展示 ・活動紹介、自由交流（30 団体） ・自由来場
12:00	受付開始（午後の部）
12:30	開会挨拶、趣旨説明 ・おかやま環境教育ミーティング実行委員会 実行委員長 林美帆 ・かんきょうひろば事務局
12:40	オリエンテーション ・NPO 法人だっぴ コーディネーター 大森哉絵氏 ・今の気持ちと今日持ち帰りたいもの
13:00	分科会 ・事例発表、体験活動の共有等（5 テーマ）
15:00	全体会 ・NPO 法人だっぴ コーディネーター 大森哉絵氏 ・ふりかえり、わかちあい
16:00	閉会挨拶 ・おかやま環境教育ミーティング実行委員会 副実行委員長 小桐登
16:20	閉会

## 3. 内容

### ブース展示

- ・自由交流の場としてブース展示を行った。各出展者の活動紹介や実際に体験できるブースもあり、参加者同士がつながる場として大いに盛り上がった。
- ・今年度はブース展示について事前予約不要の自由来場とし、多くの来場者数となった。
- ・今回、新たな試みとして参加者同士の交流を事前に設定する「ブース交流希望調査」を実施し、15 団体のブース出展者がブース出展者同士の交流を行った。

表 1 ブース出展団体一覧（30 団体）

1	NPO ICOI×ふくしまボランティア岡山隊
2	岡山大学環境部 ECOLO
3	岡山県立水島工業高等学校（化学部）
4	ノートルダム清心中学校・清心女子高等学校 自然科学部

5	ちゅうぎんフィナンシャルグループ
6	イオンリテール株式会社
7	岡山県立倉敷商業高等学校（倉商ツムグプロジェクト）
8	NPO 法人真庭あぐりガーデンプロジェクト
9	jam tun - ジャムタン
10	JICA 中国
11	岡山大学教育学部附属中学校科学部科学班
12	岡山 ESD 推進協議会
13	NPO 法人エコネットワーク津山
14	岡山ガス株式会社
15	環境省中国四国地方環境事務所
16	公益財団法人おかやま環境ネットワーク
17	岡山県森林インストラクター会
18	倉敷市自然の家
19	藤クリーン株式会社
20	あさくち de eco る課！！ さとしょう de eco る課！！
21	公益財団法人水島地域環境再生財団（みずしま財団）
22	岡山水産物流通促進協議会おかとと
23	釣り人みんなで、ごみ拾い
24	NPO 法人タブララサ
25	株式会社ピリカ
26	特定非営利活動法人グリーンパートナーおかやま
27	私の学校準備室 Kodona
28	西川・枝川用水をきれいにし隊
29	自然体験リーダーズクラブ
30	赤磐市野生動植物調査会



## 開会挨拶、オリエンテーション

- ・今の気持ち、期待度などをジェスチャーで表現し、参加者同士で自己紹介を実施した。
- ・最後に参加する上で少しでも楽しく、また主体的な学びを得るための心構えを共有した。



## 分科会

- ・分科会は、5テーマに分かれて実施した。
- ・各分科会は、第11回おかやま環境教育ミーティング実行委員会を中心に、依頼した講師やファシリテーターと企画・運営を実施した。多岐にわたる内容で構成され、それぞれで活発な交流が行われ、楽しみながら学び合うことができた。
- ・今回の分科会では「3カ年テーマを継続すること」を前提に企画を行なった。参加者は、岡山県内・岡山近辺で起きている問題、課題を知り、考え、振り返りなどを通じて、私たちの身近で起きている環境問題や取り組みについて考える機会になったと考えられる。

### ① 2050年には魚よりも多くなるといわれている海洋ゴミ

～いま、私たちにできることは～

【実行委員】室貴由輝（岡山県教育委員会）

【話題提供者】塩飽敏史氏（公益財団法人水島地域環境再生財団）  
平井雅明氏（釣り人みんなで、ごみ拾い）

【概要】

環境省によると、世界では毎年少なくとも800万トンものプラスチックごみが海に流出しているといわれており、そのうち毎年2～6万トンのプラスチックごみが日本から流出していると推計されている。海の生物はもちろん、人間にも悪影響を及ぼすと言われる海洋ごみの増加に歯止めをかけるために、私たちにできること、しなければならないことについて考えた。

【課題とそれに対して出た参加者からの意見】

#### ●課題

社会のあり方、人の意識向上、ゴミ拾い、排出抑制のメリット検討

#### ●参加者の意見

- ・個人でのゴミ回収やイベントに参加した方がよいのは理解しているものの、できていない
- ・ゴミ回収イベントの頻度をもっと増やすことで、参加できる人が増える

- ・そもそもの社会のあり方を見直す必要があり、そのために自治体や国の協力が必要である
- ・人の意識を変えていく必要があり、メリットを考えていく必要がある
- ・みんなが自分事として考えることが重要である

#### 【まとめ】

- ・参加者からは「便利さを知ってしまったから昔には戻れない。これからをどう変えていくかが重要である」というような感想があった。
- ・「海ごみをなくすためにやった方が良いけれど、できていないこと」「なぜ、できていないのかの要因を深掘りする」ことをワークショップ形式で検討し、それぞれのチームごとに深掘りができたようだ。
- ・どのチームも「人の意識向上」「自治体の関わり」という意見がでていた。講師の想定以上に深掘りもできていたことから、参加者の学びは深まったと推察できる。
- ・今回の分科会は海ごみ問題の入口部分である。今後、様々な海ごみ問題を深掘りしていくことで、課題解決に繋がると考えられるため、次回も引き続き同様のワークを実施していきたい。

#### 【実行委員コメント（代理：塩飽氏）】

- ・海ごみ問題の解決に向けては、「ポイ捨てを無くす」「きちんとごみ箱に捨てる」ということも大事だが、そもそも使い捨て製品を中心とした大量生産・大量消費・大量廃棄の社会のあり方を変えていくこと（規模の縮小、循環型社会の形成など）が必要であると考えます。国（行政）や企業も含めて、モノを減らしていくというコンセンサスをどうつくっていくかが今後のテーマになるのではないかと。
- ・「深掘り」ワークショップは、まだ試行錯誤の段階で、今回は参加者に助けられたところが大きかったので、今後より分かりやすくブラッシュアップしていく必要があると思う。

## ②「気候変動の最新動向を学び、アクションへ！

### ～脱炭素・エネルギーシフトを、世界×全世代で進めよう～

【実行委員】竹島潤（岡山市立操南中学校、NPO ICOI）

【話題提供者】伊与田昌慶氏（国際環境 NGO 350.org ジャパン・キャンペーナー）

#### 【概要】

大気中の二酸化炭素濃度はかつてないスピードで急増しており、IPCCの第6次報告書では地球温暖化が人間の活動によることは疑う余地がないと示した。世界中で数多くの異常気象が起これ、多くの自然や生物に影響を及ぼしている現状や世界の最新動向を学び、我々に何ができるか、何をしなければならないかを、グループで話し合った。

#### 【課題とそれに対して出た参加者からの意見】

##### ●課題①

大幅なエネルギー対策をしなければ、1.5℃目標達成は不可能であるにもかかわらず、日本は「脱石炭国際連盟」に加盟していない唯一のG7加盟国であり、再生可能エネルギーへのシフトに舵をきいていない

●課題①に対する参加者からの意見

- ・人は不幸と不安なら不幸をとるといわれるように、現状維持を選んでしまう傾向がある
- ・ひとりひとりの身近な頑張りも大事だが、それだけでは解決しきれなくなっていると感じる
- ・再生可能エネルギーに対して、アンチの声が大きい

●課題②

現状を作ったのは大人である一方、被害を受けるのは若者世代である「世代間不公平」

●課題②に対する参加者からの意見

- ・若い世代に押し付けている罪悪感を持っているが、頼まざるを得ない状況になっている
- ・自分は若者世代で今は被害者の立場だが、今後逆の立場にもなりうるので、被害者だからと思わずに自分にできることを模索していきたい

【まとめ】

- ・最後のまとめでは、参加者から「脱炭素社会を想定し、バックキャストで対策を考えていくことが必要」といった発言があった。
- ・「なぜビニール袋が有料なのか」など、仕組みや活動の根本の部分で、さらに若い世代にも伝えていきたいという10代からの意見もあり、未来を見据えた意見交換の場になったと思われる。
- ・環境学習を行う際、最後に「自分たちに何ができるのか」を落としどころにすることが多いが、それでは足りないという課題も出たので、より深い環境教育を実施していくために何が必要かを今後協議していく必要がある。

【実行委員コメント】

- ・次回同じテーマで開催できるならば、気候変動危機に対して国際会議やグローバル企業の取組がどう変わったのか、1年間の動向変化を切り口に始めたい。その上で、市民レベルでできる活動やアピールなどについて、アクションプランを立て、事後活動として参加者で集まって実行してみたい。
- ・アイスブレイク、できるだけ多くの参加者同士で知り合い、つながる手立てを講ずることが大切だと再認識できた。参加した中学生の「参加してすごくよかった」とコメントした際の表情を励みに、今後もユース世代を交えて開催したい。

③ 地球にやさしい選択、エシカル消費へ～世界を変える力はあなたにも～

【実行委員】 林美帆（岡山理科大学）

【話題提供者】 田賀朋子氏（jam tun）

【概要】

セネガルでの取組について田賀氏に話題提供していただき、林氏とのQ&A形式で、jam tunの活動を始めるに至った経緯や仕事を通じた生産者側の心境や行動の変化、目指す社会のイメージなどについて語っていただいた。その後、参加者同士でワークショップを行い、「エシカル消費のために岡山で出来ていること・出来ていない

こと」、「どのような価値観で自分たちはモノを消費しているのか」について議論した。

#### 【課題とそれに対して出た参加者からの意見】

- ・「どのような価値観で自分たちはモノを消費しているのか」という議題に対して、自身の好みや価格、機能性で選択し消費しているという意見が多く、商品の生産者のことや商品が売り出されるまでの物語については十分に考えられていないという意見が多かった
- ・エシカル消費が実現された理想的な社会についても併せて考え、その中で、「生産者と販売者・消費者すべてが笑顔になれる社会」という意見が出た。また、「生産者の顔や商品販売までの物語・金銭の動き等が可視化される社会」という意見が出た
- ・理想を実現させていくための手段やこれからの行動として「現実を知ること・知識を得ること」「エシカル消費のブランド化」「エシカル度表示を商品に設ける」「新しいブームを作る」などの意見が出た

#### 【まとめ】

- ・参加者からは「本ワークショップのような話し合いの機会が非常に大切だと感じた。」「商品購入時にここまで深く考えたことがなかったので、これからは背景を考えながら商品を購入するようにしたい。」というような感想があった。
- ・参加者の反応としては、エシカル消費の考え方をどう広めて行くかという問題について、「出前授業を行う」等の意見が出ていたものの、皆頭を悩ませているように感じた。
- ・ワークショップの議題は、「どのような価値観で自分たちはモノを消費しているのか」という現状を知るための議題であったが、各々でモノの消費の価値観を考える中で、次第に理想的な社会の現実に向けた意見も多く出てきて、参加者同士で非常に建設的な議論ができていたと思われる。
- ・先述の通り、エシカル消費の考え方をどう広めて行くのかについて皆頭を悩ませているようだったので、今回はエシカル消費の広め方についてさらなる協議を行い、理想的な社会を実現するための具体的な手段についても議論できればよいと考える。

#### 【実行委員コメント】

- ・「エシカル消費」という言葉が、まだ一般化していないように、まだまだ消費と環境について考える切り口は固定化しておらず、それゆえに、議論をする余地があることで、ワークショップが楽しかったのではないかと推察する。消費という行為は生きていくための必要な行為であり、また娯楽を含んだ行為でもあります。消費についてさまざまなアプローチから考えてみることで、仲間を増やすことが今後もできることではないかと考えている。
- ・実行委員としては、スタッフ不足で、進行と運営を同時に行うこととなったため、直前の準備がままならなかったが、参加者の力で、ワークショップが盛り上がってくれて大変助かった。消費というテーマがとても興味深かったのだと思うが、jam tun が提供しているストーリーがある消費の部分はいまうまく伝えることができなかつ

たのではないかと思う。この物語を消費するという行為は経済学では価値論に関わるものであるが、環境教育としてこの経済学の変化について学ぶ機会があってもいいのではないかと感じている。

#### ④ 今の暮らしをどう変えれば、脱炭素社会が実現できる！？

～県内外の進んだわくわくする取り組みを知って、みんなで考えよう～

【実行委員】 小桐登（一般社団法人おかやまエコサポーターズ）

【話題提供者】 小桐登（一般社団法人おかやまエコサポーターズ）

河本直貴氏（真庭市地域エネルギー政策課主幹）

上山隆浩氏（西粟倉村副村長）

##### 【概要】

話題提供者より、脱炭素社会に向けて先進的な取組を行っている自治体の情報提供を行い、住民を巻き込んだまちづくりを展開するためにはどのような取組が必要なのかを話し合った。

##### 【課題とそれに対して出た参加者からの意見】

###### ●課題

脱炭素の取組は重要だと分かってはいるが、子育てや教育など、脱炭素以外の課題と比較すると優先度が下がり、より多くの人を巻き込むことが難しい

###### ●参加者からの意見

- ・学校の授業の一環として環境について学ぶ機会を増やす必要がある
- ・情報発信と地域内の情報共有が必要である
- ・世代を問わず何らかの取組に参加できることが重要である

##### 【まとめ】

- ・参加者は県内自治体の地域の脱炭素に向けた動きについて話を聞いた。内容について、脱炭素に向けた取組が市町村レベルのものであり、やや難しかったとのコメントが見受けられたものの、現状や今後の施策について知見を深められたようだった。
- ・脱炭素に向けた取組が、利益構造上でも持続可能であればさらに加速するだろうと感じた。また、本分科会では参加者同士が脱炭素社会に向けた取組について、各々の意見を述べあったという点で有意義であった。
- ・今回、他のチームの回答を読み込む時間がやや物足りなかったため、次回は意見を整理したうえで、実現できそうな施策について協議したい。

##### 【実行委員コメント】

- ・分科会自体は時間不足で、各グループの話し合い結果の共有をするための時間が必要であった。参加者の行動変容を目指すのであれば、事前に分科会資料などを提供し、ある程度予備知識のレベルを近づかせ、当日の話し合いで自分は何をするか、できるか、どう巻き込むか等の意見交換をテーマに沿って行うと行動変容につながりやすくなると考える。

- ・ 今後は、脱炭素については再エネ拡大のため個人、企業、行政が行動しやすくなるようなサポート組織の在り方等を事前に分科会参加者に考えてきてもらい、テーマを絞って話し合いをする方が良いと思う。

## ⑤ すべてのこども・おとなに自然×体験を！

【実行委員】 友延栄一（岡山市教育委員会生涯学習課）

【話題提供者】 小林今日子氏（公益財団法人日本自然保護協会）

熱田尚子氏（わけっこパーク）

### 【概要】

話題提供者からは、自然体験の現状・意義、体験による成長や教育効果について、また自然体験の場を創出する事例、この時の子供たちの反応・変化、見守り方等についてお話をいただいた。その後、まずは個人で自然体験に関してしていること・していないことを付箋に書き出し、そして、グループごとに4象限（していること×やりたいこと、していること×やりたくないこと、していないこと×やりたいこと、していないこと×やりたくないこと）に整理して、参加者間で思いや考えを共有した。

### 【課題とそれに対して出た参加者からの意見】

#### ●課題

- ・ 自然体験において、十分な安全管理やリスク回避が必要なのは理解しているが、当事者が本来体験すべきもの（意味がある体験）については、前述に留意しながら体験させるべきである（包丁の使用、火の使用、流れが少しあるところを歩く等）

#### ●参加者からの意見

- ・ 事故や怪我が起きないように、十分な安全管理やリスク回避を徹底すれば良い
- ・ 小さな失敗も必要な体験であり、これが安全管理能力やリスク回避力を培うものである

### 【まとめ】

- ・ 本分科会を通して、参加者は自然体験の現状や意義等を見つめ直す機会になった。また、グループワークを経て、今後どのような観点から自然体験の場を創出するか・提供していくか、体験者と向き合っていくか等の技術も含めて理解や考えが深まった。
- ・ 参加者からは「自然体験が、幼少期の時から必要だったのは勉強になった」、「体験活動の教育効果は大きいことを改めて感じた」、「危険を伴う体験は、安全管理上、除いた方が良くもしいないが、当事者の成長をふまえると必要な体験であることを改めて感じた」等の感想があった。
- ・ 自然体験を含む体験行為に対して、参加者には新たな気付きがあり、自身の考えを深める分科会になったと思われる。参加者は、新しい体験型プログラムを作り、展開していくと思われる。
- ・ 実施概要に記すとおり、自身がしていること・していないことを付箋に書き出し整理したが、全ての付箋に対して議論するには時間が不足した。体験行為自体、問題解決には重要なので、次回も同様の協議を行う必要がある。

### 【実行委員コメント】

- ・「体験」は、自然の分野や環境教育をはじめ、教育やくらしの場面で重要なので、本ミーティングでは、様々な切り口で繰り返し話し合ったり情報交換を重ねて、実践に反映していけばと思う。体験格差、体験の場、ひとの視点、様々な切り口があるのだが、ハードルをあげず、「体験」をひろげる・豊かにするという目標で継続していけば良いと思う。
- ・一方、人と自然の関係性の問題、土地利用や生物多様性など、他のテーマもあるので、今後、今回のような教育的な視点と、それぞれの問題をESDの視点でかけあわせて、具体的なテーマを設定するのも必要と思う。そのために多様な人で企画、参加してつくって欲しい。



### 全体会、閉会挨拶、クロージング

- ・異なる分科会同士になるように、3~4人組のグループに分かれて交流を行った。
- ・参加者同士で簡単な自己紹介をした後に、1日の「ふりかえり」と「わかちあい」として以下の設問に対してキーワードを書き、グループ内で意見交換を行い、1日の学びや気づき、想いについて一人一人整理し共有した。
  - ① 参加した分科会のキーワード1~3つ
  - ② 改めて環境教育で大事にしたいと思ったこと
  - ③ 自分にできること、今の自分に必要だと思うこと、今後、どのような活動や取組をしていきたいか
  - ④ 今日の感想、今日一番の収穫だと感じたこと
- ・会場全体に向けて、自分が感じたことや共有したことについて、自ら発表したい方やグループ内での他薦により、フリップに書いた内容や想いを発表、共有した。会場全体が活性化し、多くの意見が交わされた。



全体会



閉会挨拶



集合写真

## 4. アンケート結果

### Q. ブース展示の満足度を教えてください

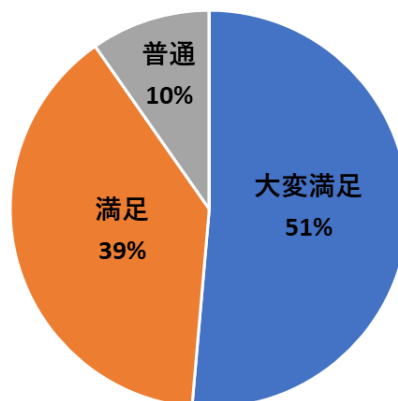


図7. ブース展示の満足度（回答数72）

### Q. ブース展示の感想を教えてください（※一部抜粋）

- 熱量のあるブースが多く、たくさん話を聞くことができました。
- 楽しかったです！自身の活動にも生きてきそうなものばかりでした！
- 多くの方がブースにきてくれて、交流を図ることができた。今回の環境ミーティングで名前や活動内容を周囲することができたので良い機会になりました。
- 他の方々のブースを見る時間は中々なかったが、資料を見てみるとそれぞれ特色のある活動をされていて勉強になった。国内だけでなく、アフリカ地域を拠点として活動されている方の話を聞いて、貴重な体験になった。自分も出展してみて、人に伝える事で自分の中で理解も深まった。
- 学生を始めとした若者が日々の活動を共有する場であり、有意義な展示となっていた。
- 活動を通して知り合いになった方とも、深くお話できた。初対面の方達とのお話も魅力的で、午前中があっという間だった。8階のみなさまとお話が全く出来なかったのは残念だが、岡山で活動をされている皆様とお話出来たことで、視点の広がりがあり活動の幅が広がりそう。ありがとうございます。
- いろいろな団体があって社会の広さを感じた。
- 多くの方から意見が得られてとても参加した甲斐があったと思っています。
- ブースの間隔が近かったので少し混雑した気がする。
- 直接その活動をされている方々とお話ができるのがよいと思いました。
- ブース来訪者と、気候変動「緩和策」への将来的なリスクやその対応について意見交換することが出来ました。ブース来訪者と、生物多様性保全のためには人為的で急激な温暖化にストップをかけることの必要性について意見交換することが出来ました。
- 企業や団体の色々な活動を知れ、体験型のブースもあり楽しんで学ぶことができた。
- 直接お話できて地球のことをかんがえ活動されている方々の熱意が直につたわってきてよかった。

- 環境に対する取り組みといっても、ゴミ問題や環境教育、生態系保全、フェアトレードなど、様々な取組が各所で行われているということを知ることができて、非常に勉強になった。
- たくさんの方に活動を知ってもらえる機会になった。
- 高校生の畳べりでネクタイを作るワークショップがよかったです。子供も楽しめました。
- 何人かの方が声をかけてくれて、自然の家の紹介をすることができた。また他の企業との関わりも出来て良かった。
- たくさんの方に立ち寄っていただいて、大変ありがたかったです。また、他の高校をはじめ、様々な団体が様々な活動をされていることを知ることもできる大変貴重な機会となりました。
- 他（8階）のブースへ行く時間なく、見る事が出来ていません。より、多くの方が立ち寄ってみてもらえる方がいい。
- 想像以上に多くの方が環境に関心をもって来場され、自社の取り組みのPRや他団体様の取り組みを知ることができ大変満足しています。
- 2つの会場に分かれていたため多少見て回るのが面倒。
- 話を聞くだけでなく体験型のブースもあって楽しめました。想像以上に他の団体の方とつながりができて有意義な時間になりました。
- 自団体にとっては、スペースの幅感などちょうどよかったです。ただ、部屋の角のスペースの方は来場者と話しづらい向きだったのか、角の方が隣のスペースに飛び出し、その隣の方がまた隣のスペースの前で話すと、隣のブース前をふさいでしまうような人の動きがあったように感じます。
- 工夫をこらした展示とわかりやすい説明で楽しくまわる事が出来た。
- 若い世代の参加があり良かったけどフロアが分かると移動の不便さと関連した展示ブースの配置などに問題が出たようです。
- 今回のように小ホールでの開催で、正面にプロジェクターが配置されているのであれば、各展示ブースのプレゼンテーションを企画し発表の場を生徒に与えてほしかった。また、ブースには多くの方が生徒の話を親身となって聞いてくれ、生徒の今後の成長につなげることができました。

Q. 分科会の満足度を教えてください。

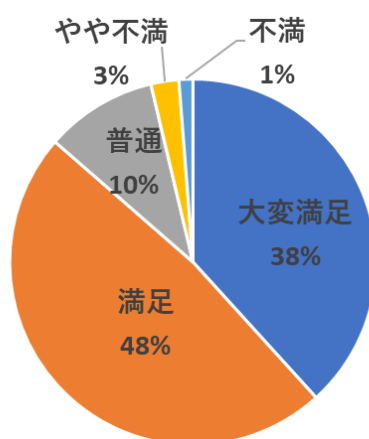


図 8. 分科会の満足度（回答数 81）

Q. 分科会の感想を教えてください。（※一部抜粋）

<分科会 1. 2050 年には魚よりも多くなるといわれている海洋ゴミ～いま、私たちにできることは～>

- とても勉強になりました！色々な活動に参加したいと思います。
- 他の参加者の活動や考え方を知れる機会が多い進行と内容で良かった。今まで参加する機会がなかった活動に参加できる機会を得られたのが一番の収穫だった。
- なかなか減らないプラゴミですが、環境を守るのに必要不可欠ですよね。これからどうして行くか考えさせられました。
- テーマについて色々な角度から深められてよかった
- 話題提供としてお話をさせていただきましたが、参加された方は画面をしっかりと見てくださり、説明も良く聞いておられたようです。
- グループにより差が出てしまうが、私達の場合は活発で建設的な意見があり良かった。
- 意見が深まり、深堀りできて良かった。
- 今の海ゴミ問題、岡山の海、川ゴミの問題を知ることができ、これからの活動していく上で必要な事も少し分かったと思いました。

<分科会 2. 気候変動の最新動向を学び、アクションへ！～脱炭素・エネルギーシフトを、世界×全世代で進めよう～>

- 気候変動の最新動向について知ることができた。これまでの環境教育のあり方、成果について考えさせられた。
- これから利用するエネルギーを速やかにクリーンに変えていくことの重要性和難しさを感じながら自分にできるアプローチを考えました。
- 最新情報を知ることができ、今後の活動を考えるきっかけになりました。
- 地球温暖化の現状を知ったり、若者の取り組む姿勢のあり方を学ぶことができた。

- 講師、参加者とも質が高く、気候危機・気候変動問題の最新動向を理解したうえで、多様な個人がつながり合いながら、この課題解決に行動を起こしていかなければならない、と決意を新たにできたことと思う。次年度の分科会 ver2.0 にどう繋いでいうか、興味深い。
- いろいろな人と話せ、いろいろな人がどのような環境にいて、どのようなことを考えているか理解できてよかった。
- はっとさせられるような非常に深いテーマでした。講義はあっという間に終わり、参加者同士のディスカッションも非常に充実していました。しかし、他の分科会にも興味があったため、可能であれば2個以上の分科会に参加できるよう検討いただきたいです。
- 引率できましたが、グループに入れていただき、様々な立場の方々が参加されていて驚きました。勉強になりました。

### <分科会 3. 地球にやさしい選択、エシカル消費へ ～世界を変える力はあなたにも～>

- 日々の購入を意識するの必要を感じた。
- エシカル消費につながるアイデアを得た。
- エシカル消費という言葉自体は知っていましたが、ファッションのことに限った話ではなく、私たちの消費そのもの（消費に対する価値観）について考えさせられるお話でした。田賀さんが仰っていた「やさしいつながり」（お互いにとって無理のないやり方で、みんなが幸せに向かっていける）という発想は、その他の問題においても大切なことだと感じました。
- エシカル消費に関して、正直全く知らなかったため、新しく学べてよかった。またワークショップでは、フェアトレードをより広めていくための消費者の考え方や価値観について考え、今まで何気なく購入していた商品に対して、これからは商品生産のバックグラウンドを1つの価値観としてとらえ、少し考えた上で購入するように心がけようと思った。
- グループワークを通して最適解を出さず話し合いを多くでき楽しかった。
- 内容は良かったが、分科会の到達点を明確にした方が良いと思います。おしゃべり会で終わらないように。
- エシカル消費というものがあまり浸透していないことを実感した。
- 私は学生でしたが、ディスカッションの中で大人だからこそ感じるエシカル消費や経営の難しさも知り、考えが広がりました。商品の質とストーリー、そして自分の好みにマッチしたものを選択していきたいです。

### <分科会 4. 今の暮らしをどう変えれば、脱炭素社会が実現できる！？ ～県内外の進んだわくわくする取り組みを知って、みんなで考えよう～>

- 暮らしと紐付いた脱炭素社会の実現について知ることができ、勉強になった。
- 少し内容が難しかったけど深い話だった
- 真庭市や西粟倉村などの具体的な取り組みが聞けてよかったです。
- 考えを付箋にまとめる時間ではなく付箋に書ききれない其々の想いを聞いたかったです。2つのまちも発表頂くのではなく、紹介ぐらいにして、テーマを決めたディスカッションと一緒に入ってもらって意見をきくなど、もう少し工夫があると意味があると思いました。

- レベルの高い内容だったので、脱炭素側面で考える人には、地域活性はハードルが高かったのではないかと感じる。その分情報提供の質は良かったと思われる。

<分科会 5. すべてのこども・おとなに自然×体験を！>

- 多くの課題が見つかったが課題が残って終わったのが残念。
- 幼少期の日常的な自然体験がその後の活動に大きく影響すると聞いて驚くとともに納得した。
- 意見交換がたくさんできてよかったです。できれば分科会によって部屋が完全に分かれていた方が声の干渉がなく幸いです。
- 実践している人に会えて共感を覚えた。

Q. 全体会の満足度を教えてください。

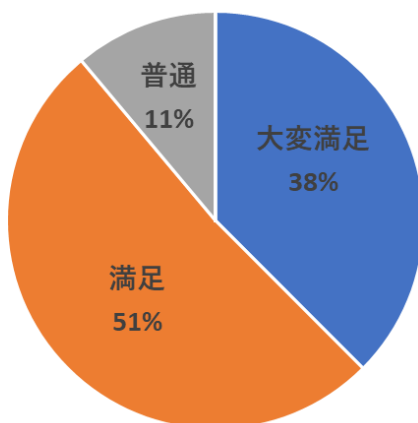


図 9. 全体会の満足度 (回答数 72)

Q. 全体会の感想を教えてください (※一部抜粋)

- 人との繋がりが増えてコミュニケーション能力が身についた気がした。
- しっかりしていて自発的な中学高校生がいて、わが町にはいないので羨ましい限りでした。様々な分科会からの意見を聞いて勉強になりました。
- 参加した分科会以外の内容もしれて大変いい刺激になった。
- いろんな意見が聞けて共有できるのはありがたいが少し時間が短い。
- 学びをシェアすることで、自分自身の振り返りにもなりました。
- 自分が参加した分野の話を知れたり、更なる意見や知識も聞けたのでよかったですと思う。
- 様々な世代の方とお互いに学んできたことを共有できて、非常に充実した時間だった。また、学んだことや分野は違えど、根本的な環境を思う気持ちは皆大体同じだということも感じ取ることができて、心地よい仲間意識も感じることもできた。こういう場をきっかけにして、環境に対してできるアプローチを自分でも色々と見つけ、積極的に参加していきたいと思った。
- 自分が体験しなかった分科会の話や、それぞれの意見・感想を聞くことができいい機会になった。

- 分科会 3 と 4 に参加したメンバーで話したので、分科会 1 と 2 については聞けませんでした。それぞれの分科会の内容をシェアできたし、高校生の感想も興味深く、進行役もいい感じでよかったです。
- ボードトークなども分かりやすい仕組みでとてもよかったです。
- 分科会での内容の情報交換の時間が欲しかった。こんな内容の話でこんな議論や意見があった等。
- 様々な立場の方とお話しでき、非常に満足です。分科会の時間をもう少し取っていただきたいと思っているので全体会は少し短くても十分学びは得られると思いました。
- 様々な人と話す機会ができてよかったです。きちんとテーマも投げてもらえるので、喋るのに抵抗のある生徒でもハードルは低いとかんじました。
- おはなしを丁寧にきいて受け入れてくださる良い方々とグループになれて幸運でした。終始楽しく笑いあるトークでした。グループの方々のように、色々な意見を寛容に受け入れて対話できる人になりたいと思いました。
- 4人程度に分かれて、全体の感想を話す場はとても良かったと思います。進行の方の進め方や話し方、時間配分も素晴らしかったと思います。
- 他の分科会も参加したいものがあつたので、内容を聞く事ができ、そして、他の方々ともお話しする機会になり、とても良かったです。
- テンポがよく進行されていたが若い人にはピッタリしても高齢者には少しついていけない。
- これまでと比べて平均の年代が高かったので（中高生の割合が低かった）感想などの積極的発言がすくなかった。

Q. 本ミーティングに参加された目的を教えてください

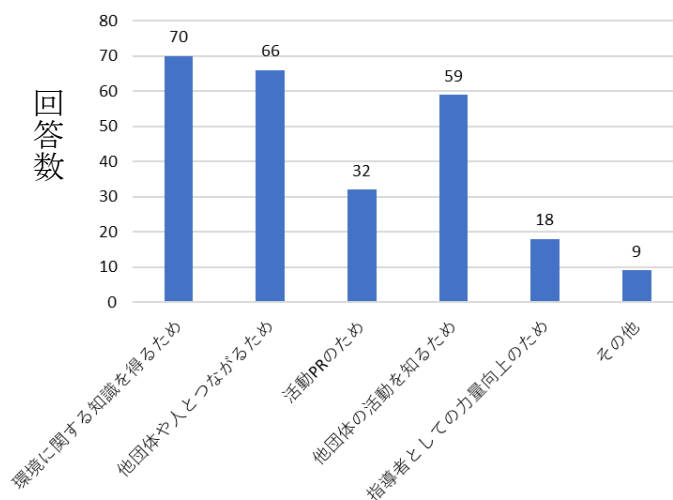


図 10. 参加目的（※複数回答可）

【その他を回答した人の詳細コメント（一部抜粋）】

- 生徒の学びの一つとして。
- 講師依頼を受けたため。

- 若い人たち中心に脱炭素の行動をする人を増やしたいから。ただし、再エネシフトなどの脱炭素の行動は稼ぎのない世代は決定権がなく稼げるようになるまで脱炭素の想いが継続できるか。
- 本校生徒へ主体的で対話的で深い学びを体験させるため。

Q. 本ミーティングに参加して新しいつながり、知識、スキルなどが見付き、次のアクションについて、手ごたえやヒントが見つかりましたか。

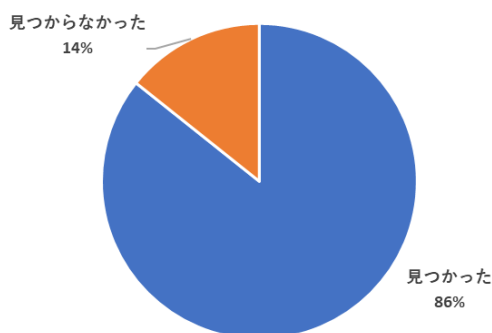


図 11. 新しいつながり、知識、スキルなどが見付き、次のアクションについて、手ごたえやヒントが見つかったか（回答数 98）

#### 【見つかった手ごたえやヒント（一部抜粋）】

- 他のブースのアプリや活動内容がこれからの活動の参考になった。
- 様々な企業の皆さんや学校の皆さんの発表を見て、環境にどう向き合うべきか理解が深まった。
- 入会したい団体がありました。
- 海ごみ対策の協力者が見つかったこと。自然体験の団体と知り合えたこと。
- 自然系で起業。
- 他団体、企業等のつながりによるアイデア。
- 自分のもっていないスキルは借りるのが良いと思った。
- 仲間づくり。
- もっと知って自分でも研究する。
- 自分の考えを多角的に見ることはとても良い事。
- 自分の地域での特色がでる環境教育の実践。
- 海底ゴミの回収活動に参加できる機会が得られた。
- 衣食住やゴミ問題など生活で見えてないことも多いと思った。
- 子どもに伝えるのは知識ではなく気づきや興味になるように工夫し環境にとどまらない人間形成を目指せるような活動を志したい。
- 分科会の講師を自分たちの活動でも講師として呼びたいと思った。
- 楽しくすること。私も相手も楽しく楽しむことができる環境教育をすること。
- 藤クリーンを知ったこと。生徒を連れていきたいです。
- 一緒に活動してくれそうな方が見つかった。

- 教育事業も、色々な団体が積極的にやっている事を知れたので参加してみようと思います。
- 消費と環境という視点は今まで自分の中になかったので、環境について考える新しい視点を得られたと感じました。
- 地球温暖化に対し、何か行動するときどれくらい影響するか考える姿勢や、海外の優れた技術を参考にするという考えを得ることができた。
- 皆さんがしている活動がわかり参加してみたいとおもった。
- 全体会にて、環境教育を行っている方と知り合い、その方の考え方に感銘を受けた。ぜひ、イベントなどにも参加してみたいと思った。ブース展示では、水田で撒かれたプラスチックが含まれた肥料が、流れに乗って海へと流出していることを知り、問題の深刻さを知ることができた。分科会では、生産者と販売者の繋がり方の大切さや、グループワークなどで人と考えを共有する力が非常に大切だということ改めて感じた。
- 物を購入している際は常に考えを巡らせる。
- バイオマス発電の燃料確保の課題を知って、今後の林業などを考えたいと思いました。
- 西粟倉村に視察を検討してみます。
- 多様な視点を持つ方々を交流することができた。
- 今回の展示で焦点をあてていた「い草」についてもっと知っていきたいと思いました。
- 乳幼児×多様な家庭に届けるという方針は賛同を得られるので、もっと進めていこうと思いました。
- 現在の自然体験の状況と問題点がわかった。
- 小さなアクションも大切であるがもっと大きな効果があるようなプロジェクトに参加・賛同すること。そのために多くの仲間作りや共感を得られたらいいなと思います。
- 百間川でのカヌーチーム合同のごみ拾い。河川敷+中洲
- 中国銀行 百間川ごみ拾い情報。
- 公民館館長さんとの情報交換。
- 出前講座 PR。
- 次回は少しでも生徒参加を目指したい。できればブース展示まで。持っていきたい。
- 自然体験、イオンリテールの活動。
- モチベーションアップ。
- CO2の現状、地球の現状を知ることができました。教員という立場で、できることをしたいです。
- パンプを用意する。普段から環境を意識して活動する。
- 学校間、企業等のつながりがつくれそう。
- 他企業との取り組み。
- ゴミ問題に対して行動を起こす。
- 参加者側を体験することで、皆さんの意見が聞けたり、モヤモヤを感じる事ができました。伝えるためには、開催の意図、参加者の想い（知りたいこと）の方向性を揃えることの大切さを再認識しました。これから忘れないようにします。

- お名前は知っていても初めてお会いできた方が数名おり、終了後に連絡先交換でつながることができました。また、展示に慣れていないかたこそ一度にたくさんのブースを拝見できたことで、より伝わりやすい内容の掲示が勉強になりました。
- 今回、海ゴミは用水から来ていると伺ったので、毎年参加している海ゴミ清掃の他にも身近な河川、用水のゴミ拾いに参加や個人的にもしてみようと思った。アマモの再生活動でお世話になっている漁師さんや漁港の方にも今回知った現状を伝えたり、活動を聞いたり話題にして海ゴミの話ができれば良いと思いました。また、接してる子どもたちにも楽しい自然の企画と一緒に、自然を大切に思う気持ちに繋げていきたいと思う。
- SDGs かるた、CO2 をへらすゲームで遊んで体験する出前教室を申し込もうと思っている。
- ミーティングを 11 回実施して、何が変わったか、人の行動は変わったのか？ 現実的な行動をする人を増やす工夫が重要でしょう。年 1 回のミーティングだけでは、仕掛け不足。もっとアースキーパーなどが真剣に行動できるような仕掛けも必要では。個人レベルでは、再エネの導入率をあげるための細かな手順設定や紹介などが必要では。同時に企業の脱炭素アワードなどもこれまでの県からの予算だけではなく、自立して稼げるような工夫、山陽新聞や他の団体と連携したしかけづくりが必要でしょう。
- 同じ思いの人が多くいつも通り続けることが大事だと感じた。
- 今回は昨年同様、BDF についての展示ブースとして参加した。昨年とはことなりパワーポイントなどを新たに活用し望みましたが、昨年、来場された方から昨年から取り組んだ新しい内容を教えてほしいと話があったが、現状維持の実習活動で新しい取り組みができていないことに気づきました。

## 5. まとめ

### 【全体考察】

- ・ 今回のミーティングは、これまでの開催と比較して、開催時期、会場、実施形式の一部を変えて開催した。新しい試みや仕掛けを行ったことにより、参加者層をこれまでより広げるなど変化は見られたが、新たな課題や改善点が見られた。今後、これらを精査し改善していく必要がある。
- ・ アンケート結果から、これまでは半数近くの参加者が 10、20 代を占めていたが、今回の参加者層は、各世代満遍なく参加していることが分かった。また、ミーティングへの参加回数に関する質問に対し「初めて参加」の回答が半数近くあった、これらのことから、本イベントが環境教育への関係者や参加する層を広げる場に寄与していると言える。
- ・ ブース展示は、これまで参加するには事前の参加申込を必要としていたが、今回は参加者層を広げるため、自由参加できるようにした。結果、参加者は継続的に出入りし、出展者あるいは参加者同士で交流している様子が終始見られた。
- ・ これまで複数のブース出展者から「他の出展者となかなか交流できない」と意見をを受けて、今回は事前にブース交流希望調査を行い、交流先のマッチングを試みた。出展者同

士は、その場で名刺交換や情報交換が行われ、つながりの場が生まれている様子が見られた。

- ・分科会は、テーマごとに交流を図りながら、現状を講師から学び、岡山県内における問題や課題を知り（整理し）、今後どのようなアクションを必要とするかを検討した。短い時間の中でこれらを検討・整理したため、不足はあるかもしれないが、本報告書「分科会」の項目に記載する。検討内容は、各種場面で活かしていけるようにしていきたい。
- ・アンケートの結果（記述）を見ると「色々な人と知り合うことができた」、「多くの人に自分の団体・活動を知ってもらえた」、「情報を手に入れることができた」、「自分にできるアクションが何かを考えた」というようなコメントが複数見られた。このことから、本ミーティングは「つながりの場」、「学び合い高め合う場」、「協働が生まれる場」であり、岡山県内における環境教育の関係者層を広げる場になっていると思われる。

## 6. 実行委員会開催スケジュール、実施プロセス

### ●実行委員会開催スケジュール、実施プロセス

- ・6月20日 第1回実行委員会：開催方針共有、企画概要検討
- ・6月27日 第2回実行委員会：分科会の実施内容検討、広報検討
- ・7月8日 開催決定案内、ブース出展者募集の開始
- ・8月19日 一般参加者募集の開始
- ・8月27日 第3回実行委員会：分科会、全体会の実施内容
- ・9月23日 第11回おかやま環境教育ミーティング開催
- ・10月21日 第4回実行委員会：次回の開催に向けたふりかえり

### ●主催および実行委員

主催：おかやま環境教育ミーティング実行委員会

岡山県、公益財団法人岡山県環境保全事業団

実行委員長 林 美帆（岡山理科大学）

副実行委員長 小桐 登（一般社団法人おかやまエコサポーターズ）

実行委員 竹島 潤（岡山市立操南中学校、NPO ICOI）

友延 栄一（岡山市教育委員会生涯学習課）

室 貴由輝（岡山県教育委員会）

### ※ 岡山県環境学習協働推進広場（かんきょうひろば）

岡山県は、より良い環境に恵まれた持続可能な社会の実現に向けて、県民一人ひとりが環境に関心を持ち、環境の重要性を理解し、環境保全に取り組む意識を高めるため、環境保全活動に取り組む団体等から広く情報収集し、総合的かつ効果的な環境学習をNPOや企業・大学等と協働により推進することを目的として、環境学習協働推進広場を設置しています。か

んきょうひろばでは、“環境学習出前講座（講師の派遣）”、“環境学習器材の貸出”、“環境学習指導者の登録・養成研修”、“参加団体・指導者間の交流（情報共有や勉強会）”などを行っており、この“おかやま環境教育ミーティング”も環境学習協働推進広場の事業として実施しています